

第2回地球内部専門部会議事録（案）

書記：阿部

日時：平成15年10月21日（火）13:00-16:00

場所：海洋科学技術センター東京連絡所

参加者

専門部会長：荒井章司（金沢大学；ISSEP 共同議長）

委員：阿部なつ江（JAMSTEC），小原泰彦（海上保安庁；ISSEP 委員），道林克禎（静岡大学），望月公廣（東京大学），山野誠（東京大学；ISSEP 委員），海野進（静岡大学；ISSEP 委員），山崎俊嗣（産業総合研究所；ISSEP 委員）

オブザーバー：石川尚人（京都大学；ISSEP 代理委員），山本啓之（JAMSTEC；ESSEP 委員），青池寛（JAMSTEC/CDEX），江口暢久（SAS オフィス），小川勇二郎（筑波大；ISSEP 委員）

コンソーシアム：巽好幸（JAMSTEC；コンソーシアム執行部），徳山英一（東京大学；コンソーシアム IODP 部会長）

リエゾン：北里洋（JAMSTEC；地下圏微生物専門部会長）

事務局（AESTO）：山川稔（科学掘削推進部長）

議事に先立ち，参加者の自己紹介が行われた。また，第一回専門部会（6月28日）の議事内容を報告し，議事録として承認した。

議事次第

1．地球内部専門部会部会長補佐として阿部なつ江（JAMSTEC）を承認した。補佐は，部会長，巽 IODP 執行部・地球内部部会担当，及び執行部（特に齊藤 IODP 部会長補佐）と密接に連絡をとり，パネルメンバーのフォローアップや，これから行わねばならない科学計画作成・掘削提案の発掘のためのシンポジウムの開催，などをサポートする。また，部会の議事録を取る。

2．専門部会の役割に関して巽氏より説明があり，確認した。

（1）科学計画の策定にかかわる。

（2）掘削提案のリード役を勤める。

（3）乗船研究者選定／育成／サポートを行う。また，必要に応じてプロジェクトチームを作ることもある。

（4）SSEPs 対応（ISSEP の国内版）。これに関して，SSEP のマニフェストが紹介／説明された。また，山本氏から iSSEPs の活動報告がなされた。今までの経緯が経験を交えて紹介された。新潟会議（第4回 iSSEPs 2003年6月）では4つの小グループによる細かい議論が試みられ，非常に評判は良かった。ボルダー（第1回 SSEPs 2003年11月予定）でも新潟方式を踏襲する予定であることが述べられた。

・会議時間がほぼ倍増（夜間セッションあり）

Working group の役割説明

SSEP 内 Working group

パネル数 / SSEP 会議の方式 / ランキング時の SSEP の対応を決める

SSEP のシステムに関して質問に対する回答 (江口)

- ・新潟とボルダーでプロポーザル数はほぼ一緒 (今回は少し多い: 約 20)
- ・ active proposal のうち, 新しい動きがあった物のみ SSEP に上げて議論する
- ・“ 3 年ルール ” は存在: 3 年間動きがないプロポーザルは消滅する
- ・プロポーザルのレビュー項目は資料 (p.21) 参照

Watchdog の役割について (パネル委員の役割)

- ・事前に割り振られたプロポーザルの review
- ・ 1st, 2nd, 3rd, 4th が会議の後 (現地で) review をまとめる .
- ・古いプロポーザルには, 歴史あり: 古い review との consistency を保つよう勤める .

SSEPs 委員 (役割, 仕事) ガイドライン作成を J-DESC に要請した .

3 . J-DESC Letter

(1) CDP (Complex Drilling Program) の取り扱いについて (巽)

- ・ SPC で認定する . プロポーネントの自薦, SPC からの推薦等様々な形あり .
- ・ 1 つの full proposal が入っていることが条件 . いくつかの独立した掘削プロポーザルが集まり, 一つの傘に入る .
- ・ プロポーネントによる自薦, SPC からの推薦等様々な形あり .
- ・ CDP の利点: 認定されることにより, 各国 (少なくとも日本国内) での研究費申請時に役立つ

(2) 微生物 BSSEP : (北里) 資料 7

- ・ 2 つのパネルで (日本から 14 人) 対応し, ESSEP, ISSEP に少しずつ微生物分野のメンバーが含まれることが望ましい .
- ・ 他分野との共同体制を築く . 共同提案という形になるよう, 他分野も理解, 協力をすることを提案 .

SSEP の構造に関して (江口)

- ・ 委員は 3 年交代で, 新旧入り交じるように入れ子状態で交代 . 一方プロポーザルは, 早くて 2 年, だいたい 3 ~ 4 年であがり .

(3) 今後の会議の体制: 当面新潟方式の踏襲

(4) 外部評価:

現時点; 出来上がったもの SAS の外の評価を得るために全ての (完成した) プロポーザルに対して行われている (ボルダーではこれまで通り)

今後; J-DESC 提案はもっと早い段階で . Watchdog の代わり (同様の対応)

- ・ 外部評価依存率を増やせば, 多少時間が余計にかかるであろう .
- ・ 未成熟なアイデアを取られる等の理由からアメリカ側は早期の外部評価取り入れに否定的 .
- ・ 日本側も不利か? 国内では, この専門部会でプロポーザルを育てて行くことを再確認 .

- ・最終的に review 責任を持つのは watchdog である
- ・良い評価が得られた場合，スケジュールではなくランキングに効く
- ・現行外部評価は，プロポーザルが完成されてから行われるため，お墨付きを与えるのが目的であり，プロポーザルの熟成には役立たない。

(提言1) プロポーザルをリバイズしていく過程で外部評価に出したほうが、よりよいプロポーザルに仕上げるのに役立つという指摘もあり、地球内部部会では、外部評価を取り入れることには賛成する。
 *ただし外部へ出すタイミングは要議論。丸投げせずにプロポーザルを絞り込んでから外部に出す。
 例えば、折衷案(出来上がったプロポーザルと手に終えないものを外部へ出す)も考えられる。
 @地球内部専門部会で、Reviewer リストを作成する

4. 乗船研究者の推薦

資料 8-1 (既スケジュール 2004 以降) 近々公募が始まる予定(TAMU HP に science prospectus が up される予定)

- 1st Leg は，2004 年 6 月 24 日出航の Juan de Fuca I “Hydrothermal”
- ・コンソーシアムとして，乗船研究者への有形無形のサポート(財政的サポートはまだ約束できない)。
- ・専門部会として，プロポーザルの内容を理解し，航海の宣伝と乗船研究者の募集(自薦他薦問わず)を行う。
- ・乗船資格は当面博士後期課程の学生以上。
- ・ODP 時代にあった学部生の教育プログラムは検討中
- ・10 名に満たないレグがあっても良い。人気があるもの、ないものなど、国内戦略にもよる
- ・「ちきゅう」運行が開始後は年間 100-120 人の乗船研究者を出すため、積極的に宣伝するよう努める。
- ・iodpsc-ML 等で流し，専門部会，SSEP 委員が窓口になる。
- ・専門部会等を通さずに出して採用される場合があっても良い。

専門部会として，既スケジュールに対して担当を以下のように決め，宣伝を ML などに流す事を確認

- 1) 山野：Juan de Fuca Hydrothermal
- 2) 山崎：N. Atlantic Pmag 中心の掘削計画
- 3) 小原/阿部：Core Complex メガムリオン掘削

(提言2) 専門部会から，リードプロポーネントにお願いし，航海の内容を把握，J- DESC から全国機関へ流し，乗船研究者を推薦してもらう。

5. 年度末国際シンポジウムの開催(巽)

2日間 20名程度

- ・特にアジア諸国への IODP 宣伝，講演者の招聘
- 内容は，日本のプロポーザル紹介(IBM, 地震発生帯，モホールなど)
- ・内容を決めたら，招待講演者を選定

#(小原) 来週北京で InterRidge の会議(類似)があることが紹介された。中国が正式に InterRidge に加わることによる

* (荒井) AOGS (Asia Oceania Geoscience Society) シンガポール(7月5-9日)に開催され，オフイオライトと海洋地殻のセッションで IODP 掘削の(特にモホール関係)話を募集している。

6. IODP 発足記念科学シンポジウム（神戸）

巽氏より参加依頼（会場は 150 名）予算取りに重要．これを元に国内戦略の改訂版を作る（11 月中旬まで）

第 1 部（木村），第 2 部（巽），第 3 部，第 4 部

各専門部会で review する

今後シンポジウムを開催したら，冊子，講演要旨，prospectus，雑誌（月刊地球特集合，Island Arc など）の特集号等にまとめるよう巽氏から提案（予算取りに重要）

7. 今後の広報活動

- ・ J-DESC 会員校でのシンポジウムを積極的に行う．
- ・ Outreach/Education Program とリンクさせた活動を．（例えば，新潟や札幌での市民向け講演等）
講師は専門部会から推薦する事が望ましい．

予算 コンソーシアムから助成（旅費等は手弁当）

Outreach 担当者を J-DESC で人選中．今後はその担当者とコンタクトを

8. その他

- 1) J-DESC から，生物圏が出したようなまとめを 10 月 29 日までに，提出するよう部会長へ要請．
- 2) 阿部より，「モホール計画」を前面に出したシンポジウム“あらゆる情報会議”を 2004 年 3 月中旬に JAMSTEC 横須賀本部で開催予定．広く参加を募る．